

基盤教育カリキュラム 履修案内



岩手県立大学

岩手県立大学

Iwate Prefectural University

高等教育推進センター

学びの特徴

1 4つの学位を支える 基盤科目

大学での学ぶ力を作る〈知の基盤〉

大学での4年間の学び、また実社会に活用できるスキルの獲得と資質・能力・身体の育成を目指す。

生きる世界を知る

それぞれの専門領域の知識・技術を活用する場としての「世界」を知ることを目指す。

学問を知る・使う

それぞれの専門領域を学問全体（知の体系）の中に位置づけ、課題解決のための、他学問領域の「知」を活用できることを目指す。

2 主専攻の学びを 更に広げる・深める副専攻

主専攻【各学部の学士教育プログラム】

4学部それぞれの専門分野の学びに付加価値を与える

副専攻 地域創造教育プログラム

都市に対峙する「地方」の抱える地域社会の現状を知り、課題の設定、課題解決のための知識・技術・コミュニケーションをフィールドワークを通じて実践的に学ぶ。

称号
地域創造士

副専攻 国際教養教育プログラム

グローバル化する世界において、多文化を理解し、異文化共生の可能性を考え、実現するための、語学をはじめとした技術、知識を学ぶ。

称号
国際教養士

本学の
基盤教育は

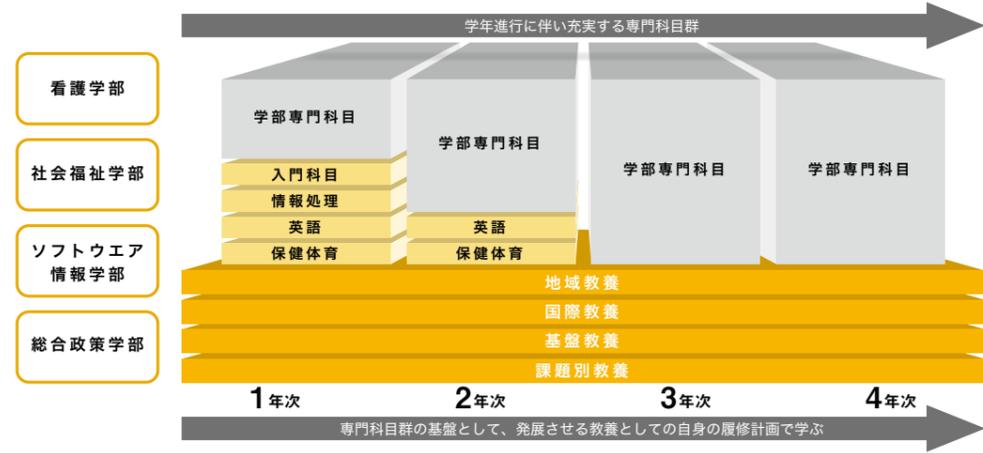
大学の学びを支える基盤科目とそれぞれの専門を発展させる教養科目を提供します

現代社会は、予測不能の社会といわれています。皆さんは4年間の学んだ専門分野の知識・技術をその時代の要請に応じて、使用可能なものとして発展させていくことを求められます。そのためにも、人類がこれまで築き上げてきた「知」を知り、私たちを取り囲む世界を知り、活用する力が必要になります。本学の基盤教育は、そのような知と技を修得するために講義・演習・実習など多彩な教育方法で学んでいきます。

基盤教育体系と理念



4年間の各学部教育の学びを支える基盤教育



科目ローズアップ

大学では、これまでの学びと異なり、自ら問いを立てて、主体的に学び、その問いに創造的に答えしていく学修となります。そのためにも、学びのための方法を確実に身につけていく必要があります。

大学で学ぶ力をつくる「基礎科目群」

■基礎教養入門

大学で学ぶために

大学で学ぶための基本的なスキル（アカデミックスキルズ）を獲得を目指します。文献を読むこと、レポートを書くこと、プレゼンテーションすることを通して、課題設定力、問題解決力、批判的思考力を身につけ、ここでの学びが、4年間の専門教育を発展させていくための基盤としての力となります。



■英語

英語でコミュニケーション、そして発信するために

教養教育や専門教育の基盤となる英語の学力を身につけ、親しみながら学修していくための知識・技能・態度を養うことを目的としています。レベル別の少人数クラスで「英語基礎演習」「英語実践演習」の2つの科目を効果的に融合した教育を展開しています。



■情報リテラシー

ICT社会で正しく情報を活用するために

各種コンピュータアプリケーション、ネットワーク操作を習熟するとともに、情報技術活用についての社会的責任（情報にかかわるモラル）、影響などを学び、これからの情報化社会の参画する態度を身につけます。



■保健体育

自らの健康を考え、維持するために

現代における健康について幅広く考え、心身の健康や健康的な生活・生き方について考え、自ら積極的に健康的な生活のための行動がとれることを目指します。また各種スポーツ種目の実践から、身体機能を高め、健康保持のためのスポーツを考え、スポーツを通してのコミュニケーションを考えます。



生きる世界を知る、そして学問を知る・使うための「教養科目群」

■地域教養・国際教養

生きる場としての世界を知り、活躍するために

ローカル、グローバル両面から生きる世界を捉え、4年間で学ぶ各専門科目を社会に還元していく方法について考える基盤を身につけることを目指します。



■基盤教養・課題別教養

大学人としての教養を広げるために

これまで人類の文明に寄与してきた各種学問の「知」を学び、自らの専門領域に関連付けて考えることが目指します。また現代社会の課題、事象に焦点を当てた多角的、学際的なアプローチで、社会における正解の無い本質的、普遍的な問題について考え、自身の考えを深め、構築していくことを目指します。



副専攻 地域創造教育プログラム

【副専攻とは】各学部の専門性を活かしながら、それ以外の分野の知識を学ぶ、学部の枠を越えた学修の制度です。世界を「地域」「国際」という視点から理解し、実践的な考え方を体系的に学びます。「地域創造教育プログラム」と「国際教養教育プログラム」の2つの副専攻があります。

！ 学びの特徴

地域創造教育プログラムは、グループ活動を中心とした地域での実践活動をととして学修します。副専攻の全課程（規程単位数16単位）を修了した学生に対し、修了証と『地域創造士』の称号を授与します。



地域の中に入っていき
地域の人々に触れる

県内各地に1～2年次の学生が赴き、1泊2日ほどのフィールドワークを通して地域について学びます。それぞれの地域課題にじかに触れその解決方法を考察することによって、主体的な学びのきっかけを作り地域の活力創出について考えます。

学生が自ら実地学習プログラムの企画を立案し、実施することが特徴です。すでに本科目を履修した上級生が教職員やコーディネーターのサポートの下で企画・実施することで、プログラムのマネジメントコーディネーターのスキルや視点を体験的に習得することができます。

GOAL!

キャップストーン科目
いわて創造実践演習

地域を調べる・
地域を知る

地域課題を発信!



いわて創造学習Ⅱ

いわて創造学習Ⅰ

コア科目（全学生必修）
大学で学ぶ、大学を学ぶ

地域志向専門教育科目群

地域志向基盤教育科目群



大学での学びを知る

地域をめぐる
課題を知る



地域で実践・
地域の中で学ぶ



第1期 いわて創造士（旧称号）

いわて創造士として活動を続け
愛着ある岩手に貢献したい



山田 美紗 さん

総合政策学部（令和2年3月卒）
岩手県立千厩高等学校卒

生まれ故郷の岩手について学びたいと思い、フィールドワークや地域学習に力を入れている岩手県立大学を選びました。これまで受講したプログラムでは過疎化や後継者不足の課題を取り上げたり、昔から続く老舗の歴史やこだわりについてお話を伺ったりしました。学部との両立が大変な時期もありますが、実際に現地へ行ってその空気に触れ、そこで暮らす方々のお話を聞くことは想像以上に刺激的で、岩手に対する思いがさらに深まったように感じています。今後はいわて創造士として、大好きな岩手に貢献していきたいです。

いわて創造士になって
岩手をもっと元気にしたい

● いわて創造学習Ⅰ

山本 一輝 さん

総合政策学部2年生
青森県立三本木高等学校卒



地域に関わる学習や活動に興味があり、いわて創造学習Ⅰを受講しました。2年生や教授、大学院生が立てる企画はどれも特色があって迷いましたが、震災後の今の様子が知りたいと釜石コースを選択。復興やローカルベンチャー企業の取り組みについて学習し、釜石で活動続ける人たちの考えや未来への熱い思いを聞きました。実際に現地へ行くことで感じることも大きいですし、自分自身の将来を考える上でとても良い刺激を受けました。最終的にはいわて創造士の認定を受け、地域を活気づけられる人材になりたいと思っています。

過疎化が進む故郷のために
できることを探したい

● いわて創造学習Ⅱ

佐々木 愛 さん

総合政策学部3年生
岩手県立千厩高等学校卒



私が生まれた町では過疎化という深刻な課題を抱えています。いわて創造教育プログラムを受講したのは、故郷のためにできることを学びたいと思ったのがきっかけでした。プログラムでは私たち2年生が中心となって釜石コースの企画を担当し、フィールドワークの内容や学習内容などを決定。慣れないことが多く大変でしたが、持続可能なまちづくりのために活動続ける方々のお話は興味深く、とても参考になりました。今後は自分から行動を起こすことも視野に入れながら、地域のためにできることを探していきたいです。

地域の方々の声を
大切にできる人材に

● いわて創造実践演習

松舘 遼（第2期いわて創造士）

ソフトウェア情報学研究科博士前期課程1年
ソフトウェア情報学部（令和2年3月卒）
盛岡中央高等学校卒



元々、自分が知らない岩手の魅力や特色を学びたいと思っていました。大学に入学した後は、主専攻の科目だけでなく、いわて創造教育プログラムの科目も履修していました。次第に岩手が抱える課題についても考えたいと思うようになり、いわて創造実践演習を履修。フィールドワーク等で自分たちが発見した課題と地域の方々が解決してほしい課題は、必ずしも一致するのではないという経験をし、地域の方々の声に耳を傾けた課題解決の大切さを学びました。この経験と学びを生かし、広い視野で地域の課題を解決できる人材になりたいです。

地域の課題解決を目指し
できることから実践を

● いわて創造実践演習

早坂 萌佳 さん

総合政策学部4年生
一関修紅高等学校卒



高校時代、ボランティア活動をしていたことからいわて創造教育プログラムに興味を持ち、1年生の頃から受講しています。実践演習は特定の地域が抱える課題を見つけ、解決策を考え実行していくというもの。最初は手探り状態でスタートしましたが、活動を進めるうちに多くの人と出会い、助言やサポートをしていただけるようになりました。人とのつながりが増えるごとに、「最後までやり切りたい」という思いがグループ全体を通してより強くなったように感じます。時間はかかりますが、地域に貢献できるよう活動を続けていきたいです。

副専攻 国際教養教育プログラム

学びの特徴

本プログラムは異文化理解、多文化共生の可能性を考え、現状のグローバル社会の課題を検討します。また、多言語の習得を目指します。副専攻の全課程（規程単位数16単位）を修了した学生に対し、修了証と『国際教養士』の称号を授与します。



国際教養教育プログラムの開講にあたって

高等教育推進センター 劉文静 教授

令和2年度から開講する国際教養教育プログラムは、世界を見る目を培い、グローバルに行動するためにローカルに思考することを学ぶプログラムです。考える力、思いやりの心、そして言語力に加えて、グローバルな事柄に想像力を働かせて考える「共感力」を大切にしながら学んで欲しいと考えています。講義の内容は、6か国語から選べる第二外国語に加え、グローバルに活躍する企業人や芸術家を招いてお話を聞くものなど様々です。文化や食などをキーワードに、グローバルな社会について学ぶ機会も設けています。言語は教養、素養であり、コミュニケーションのためのツールです。国際教養を身につけた人材が社会に出て活躍することを願っています。



カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目 大学で学ぶ力をつくる	入門科目	大学で学ぶ・大学を学ぶ 基礎教養入門I・II		
	英語	英語実践演習I・II 英語基礎演習I・II	英語実践演習III・IV 英語基礎演習III・IV	
	情報処理	情報リテラシー		
	保健体育	健康科学 体育実技		
地域教養 地域理解 地域学習		人間と職業、地域社会と健康、コミュニティ形成の理論と実践、地域と情報、地域社会とボランティア、地域コミュニティとまちづくり、異文化間接触と多文化共生 いわて創造学習I	いわて創造学習II	いわて創造実践演習
			いわて学 A、いわて学 B、観光による岩手の地域活性化、キャリア地域学習	
国際教養 外国語 グローバル理解		中国語I・II、韓国語I・II、ドイツ語I・II、フランス語I・II、ロシア語I・II、スペイン語I・II 語学研修I	語学研修II	応用外国語A・B・C・D・E・F
		日本語I・II・III・IV(外国人留学生のみ履修可能)		
教養科目		グローバル理解入門	国際社会A・B・C・D・E・F 国際文化A・B・C・D・E・F 国際演習A・B	グローバル理解演習
学問を知る・使う 基盤教養 課題別教養			哲学の世界、芸術学の世界、文学の世界、歴史学の世界、宗教学の世界、社会学の世界、教育学の世界、物理学の世界、化学の世界、生物学の世界、地球科学の世界、確率の世界、体育学・スポーツの世界、地理学の世界、看護学の世界、心理学の世界、数学の世界、経営学の世界、生態学の世界、法学の世界、政治学の世界、経済学の世界	
			自己と他者、個と集団、科学技術と倫理、環境と疾病、ジェンダーと文化、開発と環境、共生社会について考える、加齢と生活、ことばの力と限界、障害者の就労と支援、女性・子どもと環境、現代社会とストレス関連疾患、情報社会とグローバル化、労働を取り巻く課題	

アイで
世界を
変える!

